

Distribution and ecology of masked palm civet (*Pguma larvata*) in Ishikawa prefecture, Central Japan

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2350

石川県におけるハクビシンの生息状況と生態

井上耕治¹・中村浩二²

¹〒920-1192 金沢市角間町金沢大学理学部生物学科；^{1,2}〒920-1192 金沢市角間町金沢自然計測応用
研究センター

¹Koji IOUE, ²Koji NAKAMURA: Distribution and ecology of masked palm civet (*Pguma larvata*) in Ishikawa
prefecture, Central Japan

ハクビシン (*Pguma larvata*) は食肉目ジャコウネコ科に属し、インド、ネパール、チベット、中国、台湾、海南島などに広く分布する。日本では1943年に静岡県で初めて記録され、1945年頃には四国、東海、東北南部に不連続に分布していたことから帰化動物であると考えられているが、いつどのようにしてどこから移入されたのかは不明である。北陸では1980年に富山県細入村、1981年に福井県大野市、1983年に石川県山中町で見つかった。石川県哺乳類研究会により1997年と2000年に石川県内での分布調査が行われた。その結果、1997年には加賀から金沢にいたるまで、2000年にはさらに羽咋までの生息が確認され、徐々に分布拡大しつつあることが分かった。本種は主に果実食性であり、人家の軒下、廃屋、神社の屋根裏などをねぐらとして利用し、主な生息環境は低山帯から山地帯のうち農地の点在するいわゆる里山的環境である。本種による果実を中心とした農作物の被害が報告され、移入種であることから生態系に及ぼす影響が心配されている。現在の分布状況、生態を明らかにすることは重要であるがこれまで情報は少ない。本研究の目的は、①石川県における本種の分布の現状を明らかにすること、②金沢大学キャンパス内の角間の里山ゾーンに自動撮影カメラを設置し、生息状況を明らかにすることである。

方法

分布調査：調査は①石川県下の鳥獣保護員29人へのアンケート調査②石川県猟友会会員100名へのアンケート調査、③土木事務所および市町村役場での交通事故死体などの記録の収集。④筆者自身(井上)による聞き込み調査によって行った。アンケート内容は鳥獣保護員を対象としたものについては、管轄している地域にハクビシンが生息しているか、何年前からいるか、被害の有無などを質問項目とした。猟友会会員を対象としたものについては、ハクビシンを見た、または聞いたことがあるものについて、時期、場所、頭数、被害の有無、発見時の状況などを質問項目とした。調査期間は鳥獣保護員へのアンケートを2004年6月に行い、猟友会会員へのアンケートを2004年12月に行った。土木事務所など市町村役場での記録の収集および筆者自身による聞き込み調査は2004年5月から12月まで随時行った。

生態調査：角間の里山ゾーンに7定点を設定し、各点に自動撮影カメラを一台ずつ設置した。カメラの設置は日没前に行い、翌朝回収した。2004年調査は5月から11月まで合計105回行った。

結果

分布調査：

①鳥獣保護員へのアンケート

鳥獣保護員29人中24人からアンケートを回収した。アンケートによって得られた回答の結果は図1に示す。ハクビシンが生息していると回答したのは、加賀市(20年前から、被害なし)、山中町(10年前から、被害あり)、小松市(11年前から、被害あり)、川北町+辰口町(12年前から、被害あり)、松任市+美川町+野々市町(回答無し)、鶴来町+河内村+鳥越村(12年前から、被害あり)、尾口村(10年前から、被害あり)、白峰村(10年前から、被害あり)、金沢市(4年前から、被害あり)、津幡市+内灘町(16年前から、被害あり)、七尾市+鹿島町+鳥屋町+鹿西町(無回答、被害あり)、能

登島町（3，4年前から，被害あり）、珠洲+内灘町（2年前から，被害あり）であった（図1）。

②石川県猟友会へのアンケート及びその他聞き込み調査

石川県猟友会へのアンケートは100人中34人から回答を得た。その結果、ハクビシンの生息情報が39件得られた。その他聞き込みなどで得られた情報をあわせると、ハクビシンが59件得られた。その情報をあわせてハクビシンの分布図を作成した（図9）。分布図は環境庁による第2次メッシュを4等分したもの（約5kmメッシュ）に従い、県内を228メッシュに区切った。今回の調査では、アンケートの回収率も悪く得られた生息情報も少なかったため、1997年と2000年に石川県哺乳類研究会によって得られた生息情報を生息推定地域とした（石川県 1999；石川県哺乳類研究会，2000，未発表）。その結果、今回の調査で七尾周辺と能登に新たな生息が確認された。

生態調査：

哺乳類を撮影した写真は計446枚得られ、そのうち本種が26枚であったのに対して、ノウサギは51枚、アナグマは83枚、タヌキは48枚、テンは48枚、キツネは16枚であった。このことから、本種は角間の中型の哺乳類ではアナグマ、テン、タヌキについて出現頻度が高く、個体数も多いのではないかと考えられた。

図1 2004年における石川県内のハクビシンの分布

